

7/15

トッタベツヒュッテでC0。こじんまりとした小屋でかなり落ち着く。外は小雨。

7/16 (渡邊一三品)

妙敷南西面→妙敷南面下降の予定だった。朝はかろうじて晴れていたなので計画通り出発。妙敷山の南西沢遡行、南沢下降のためには一旦トッタベツ川本流を渡渉しなければならないので増水には気を遣う。出発して一時間ほどで渡渉ポイント。流れは速い。三品嬢はちょっとキャーキャー言う。問題なく渡渉する。妙敷南西面の入渓ポイントは分かりにくいらしいが、地図をしっかりと見て周囲の地形を観察しコンパスを確認すれば間違えることはない。南西面はc 900までは枯れ木や石ゴロゴロで埋まっている汚い沢だ。だがc 900から左から入る30m、2段の滝から核心が始まる。だがここへ至るまでに雨足が強くなり、帰りの渡渉がもうすぐ危うくなってきた。渡渉出来ない場合のエスケープルートは北面下降、及び南東面の大正の沢を下降しトッタベツ本流出合いにてトラバースして左岸林道へ、という2プランを豪華に考えてきたが今日は状況が良くない、まだ今なら安全に帰れる。核心部のおいしい滝を目の前にして撤退することに。退路が絶たれるとめんどくさいし危ないしストレスなのだ。敗退の経験がクライマーを強くする、敗退の判断をするというのは得がたい貴重な経験だと考える。

予定では明日(17日)は伏美南面 トッタベツ六の沢予定だったが本流増水の可能性があるので中止。増水の影響が少ない伏美北面へ計画変更し伏美小屋へ移動。ラリグラの2人と千葉・金澤・武石の三氏と合流。酒宴。

7/17 (堀井一三品一渡邊)

堀井氏と合流し伏美北面へ。天気は小雨。今日は堀井氏がリーダー。トムラウシ沢合流まではブッシュと流木で歩きにくい。だがそこからは快適な滝が続く。滝が終わるとやがて雪渓になる、そこから振り返ると幻想的な日高の山なみが霧の中に島になって浮かんでいる。こういうときはひどく嬉しい。雪渓をある程度詰めて左の沢に乗り越し軽く詰めると藪漕ぎなしで頂上だ。藪漕ぎなしも嬉しい。沢靴を消耗しなくても良いからだ。本当にたくさん滝が続いた。難しくはないけど楽しい沢だった。

今回、久々にアクアステルスラバー仕様の沢靴を試したが、あれはダメだった。フェルトと比べていろいろ利点はあるが、致命的なことに「滑る」。

堀井氏は良いリーダーだったし、三品嬢は滝登るのが上手かった。また行きましょう。